

朝日 将貴 議員 無会派

弥富創生事業は未来への責任感を持ち取り組め

問

今、中部エリアは、2027年リニア開通までにとだけ観光に力を入れるかで、その後の未来が大きく分かれる分岐点であるという認識を持つことが重要であると考える中、以下の事を尋ねる。

- (1) 人口減少社会に対応する危機感を持ったまちづくりへの意識向上が必要ではないか。
- (2) 市の北部発展にこれから必要なことは観光である。質の高い観光資源を地場産業と結びつけ産業化し、内外にアピールをして、日本全国、さらに世界中の人々が本市を訪れてくれるように取り組む必要がある。また、地方創生のメニューにのっとって予算を確保

できるように、国に強く要望し続けながら、長期に本市が発展し得る計画をつくる必要がある。

- 本市の地場産業といえば、もちろん金魚。金魚の水族館、題して「金魚アクアリウム」(爆買いできるショッピングセンターや、外国人にも人気な飲食店街を併設)のような観光施設を、駅からも近く、弥富インターからもアクセスしやすいエリアの土地を有効活用し、観光施設を早期につくるべきだと考えるがどうか。
- (3) 市の南部地域を住みよい環境にするために必要なことは、一番に鉄道を通すこと(具体的には、あおなみ線延線)。飛島村、木曾岬町と名古屋港隣接自治体が一体となり、強く要望し

続けるべきだと考える。

二次的にはきんちゃんバスの有効活用が求められる。

南部から弥富駅、海南病院に至る間の全てのバス停を通過する急行バスを整備し直線的、かつ朝夕の時間帯の増便をすべきである。

朝、忙しい子育て世代への環境整備の観点からも必要であると考えがどうか。

質の高い安定した行政サービスの提供を行っていく

答 市長

- (1) 少子・高齢化は本市も既に始まっている。

都市基盤整備(公共下水道事業、道路など)事業もまだまだ多く、国・県からの交付金を頂き施工しているかなければならない。

財政の健全化を図り、まちづくりをやっていく。

- (2) 北部地域は、新たな市街化区域を定めていこうと、国道一号線の車新田地区を新たな市街化地域へと動き始めていく。これを進めていきたい。

観光資源としての金魚は大変重要な位置づけとされているが、弥富の金魚だけで観光になるかという点、これは大変厳しい。

答 総務部長

- (3) 人口減少の進展などの需要量を考慮すると、臨海部への更なるあおなみ線延長は、現状では厳しい。

きんちゃんバスの利用は、市民生活の交通手段の確保、公共交通空白地域の解消などのため、より利便性の高いバス運行を実施していかなくてはならない。

したがって、運行業務費が増額とならない範囲内で、28年度南部ルート、東部ルート(の路線で幹線的・直線的な運行のモデルケースを策定し、弥富市地域公共交通活性化協議会に提案する。

庁舎分散を機にマイナンバーカードの普及促進に努めては

問

仮庁舎への分散移転により、市民サービスの煩雑化が予想される。

煩雑化の緩和にマイナンバーカードを利用してはどうかと考える。

コンビニで住民票などを取得できるよう、本市も取り組む絶好の機会である。

結果としてゴールデンウィークに間に合わないとしても、しばらくの間は、市民に迷惑をかけるので、早期に取り組むべきだと考えるが市の見解は。

近隣市町村の動向も見ながら検討する

答 民生部長

本市では土・日、祝日の図書館開館日の午前9時から午後5時までの間、住民票、印鑑証明の発行を行っている。

費用対効果などを考慮すると、現段階でコンビニ交付は考えていない。

今後の導入は、近隣市町村の動向も見ながら検討する。